

第1回名立区地域協議会 次第

日時：令和3年4月20日（火） 午後6時30分から
場所：名立区総合事務所 2階 第2会議室

1 開 会

2 報告事項

(1) 令和3年度名立区の主な事業について

資料No.1

(2) 名立の子どもを守り育む会の事業評価について

資料No.2

3 協議事項

(1) 自主的審議事項「ろばた館の存続に向けて」

4 その他事項

令和3年度第2回地域協議会の開催予定

・令和3年 月 日（ ）午後 時 分から

5 閉 会

令和3年度 名立区の主な事業

資料No. 1

(事業費 単位:千円)

番号	事業名	主な事業内容	概算事業費等
1	総合事務所管理費	総合事務所の適正な維持管理	9,311
2	地域活動支援事業	地域の課題解決や活力向上に向けた事業に必要な経費を実施団体に対して補助	5,200
3	地域振興事業	名立まつり、北御牧交流事業の支援	779
4	鳥獣保護管理事業	住宅地周辺でのクマやイノシシの目撃件数が増加傾向にあることから、出没を抑制するための緩衝帯の整備	草刈業務委託料 2,931千円のうち
5	ろばた館管理運営費	施設の維持管理及び運営	21,176
6	林道大町跡畑線整備事業	用地測量・用地調査、用地取得・物件補償 林道開設工事 (L=400m、W=4.0m)	63,109
7	既設林道維持管理事業	林道の除草・清掃等管理、修繕工事等 (林道南葉山線：濁谷橋補修工事、箕山橋補修工事)	70,046
8	橋梁維持費	修繕工事(森橋) 橋梁点検委託(市全体で72橋のうち名立区内6橋)	橋梁維持費 414,717千円のうち
9	道路維持事業	名立区内の市道82kmの維持管理 (地下歩道清掃、維持管理委託、道路・側溝等修繕)	10,667
10	うみてらす名立管理運営事業	施設の管理運営 営繕修繕等(空調熱源設備(冷却塔)更新工事、冷蔵庫修繕、休憩棟自動ドア修繕等)	76,409
11	シーサイドパーク名立管理運営事業	施設の管理運営 営繕修繕等(ボブスレーコース、遊具(アスレチックロープウェイ)修繕等)	11,018
12	観光施設等整備事業	観光施設の安全安心な利用に向けた整備 (「うみてらす名立」護岸(名立漁港海岸)長寿命化計画の策定、不動山登山道整備に係る経費等)	6,200
13	スクールバス等運行事業	宝田小学校スクールバス(市営バス)2台の運行管理	18,573
14	公民館管理運営費	公民館分館2施設の運営・維持管理 (施設管理委託料、ナイター施設除却工事等)	19,671
15	体育施設管理運営費	名立区体育施設の維持管理 (ひなさき運動広場解体撤去工事等)	施設管理運営費 5,018千円のうち
16	地域支え合い事業	通いの場、介護予防事業を行うことにより高齢者の支え合い体制の構築	名立まちづくり協議会委託事業

令和2年度事業報告

■活動方針

1 会の活動について

- (1) 会の目的に基づいた活動が円滑に行えるよう取り組む。
- (2) 会の存在と意義を多くの市民から認知してもらえるよう、いろいろな媒体や機会等を捉え、積極的にPRを行う。

2 開催事業について

- (1) 学校・地域・家庭が連携をとりながら活動できる体制づくりを目指す。
- (2) 地域全体で子どもたちを「守り育む」活動ができるよう取り組むとともに、大人も地域へ参画する機会を提供していく。

■事業実施状況

評価 A：達成 B：概ね達成 C：達成したが見直しが必要 D：未達成

区分 (規約から)	事業項目	目的	実施状況	自己評価（成果）並びに今後の課題	評価委員 評価
会議等	総会	総会の場において、事業実績及び計画を承認いただく。	令和2年4月25日（土）※書面開催（コロナ禍による政府の緊急事態宣言発令のため）		
	運営委員会、班別検討会、幹事会	事業の企画を行うとともに、その運営を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■運営委員会 <ul style="list-style-type: none"> 第1回：令和2年6月23日（火） 第2回：令和2年10月2日（金） 第3回：令和3年3月30日（火） ■班別検討会 <ul style="list-style-type: none"> 1班：令和2年12月13日（日） ※班別検討会について、コロナ対応として運営委員会と同時開催とした。 なお、1班においては、「名立・平和を願う日」の事業計画協議のため、個別に開催した。 ■幹事会 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業計画等協議：令和3年3月5日（金） 		
	評価委員会	会の1年間の活動全般を検証・評価していただくことで、次年度以降の活動の改善・充実につなげる。 ※評価委員名簿（順不同、敬称略） 名立区地域協議会委員より4名選出いただいた。 小林 晴子、竹内 隆、二宮 香里、畑 芳雄	令和3年3月25日（木）開催		
①ふるさとの伝承	北御牧・名立フレンドシップ！ 海と山の交流会	両地域の子どもの共同活動を通して、両地区の交流と心豊かでたくましい子どもの育成を図る。 また、保護者や地域の方々からも、事業に協力いただくことで、活動の趣旨や目的を理解してもらう。 ※平成11年11月11日に長野県北御牧村（現東御市）と友好親善盟約を締結し、市町村合併後の平成17年度から当交流会を開催している。	<ul style="list-style-type: none"> ■海の交流会 令和2年7月18日（土）・19日（日）※中止（コロナ禍のため） ■山の交流会 令和2年9月26日（土）・27日（日）※中止（コロナ禍のため） ■代替事業（共催：名立地区公民館、名立・北御牧友好協会） <ul style="list-style-type: none"> ○「旬の食材を贈り合い、子ども達に食べてもらう」 ・贈呈品 名立：モズク 6.3kg（350g×18袋） 北御牧：トウモロコシ 150本 ・贈呈式 令和2年9月3日（木）※東御市北御牧地区にて開催 ・学校給食日 令和2年9月4日（金）※名立・北御牧とも同日 ・給食メニュー 名立：蒸したトウモロコシ 北御牧：モズク味噌汁 ・その他 子どもたちが感謝の気持ちと食べた感想を手紙などにして交換し交流した。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、両地区での交流会を中止とした。このため、新たな交流の形を検討し、両地区の旬な食材を贈り合い、小中学校の給食で提供し合うこととした。 ・交流活動を継続させるとともに、子どもたちに改めて両地区の魅力を知ってもらう機会となった。子どもたちが食べた感想や感謝の気持ちを手紙などにして交換し交流することで、仲間の絆とあわせて、友好都市としての絆をさらに深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による社会情勢を踏まえながら、両地区での交流会の内容や実施の有無を検討していく。 ・中止とした場合の代替事業についても、あらかじめ共催団体と検討していく必要がある。 <p style="text-align: right;">自己評価 B</p>	A
	「平和を守る活動」を通じた子どもたちへの歴史・文化等の継承	名立機雷爆発事件をはじめとする名立区の過去に起きた事件や災害を子どもたちに継承することで、平和の尊さを考える機会とする。 ※「名立・平和を願う日」実行委員会では、平成27年3月29日に名立機雷爆発事件が起きた3月30日を「名立・平和を願う日」と宣言している。	<p>【第7回「名立・平和を願う日」記念事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「名立・平和を願う日」実行委員会（令和3年2月2日（火）） <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容の検討 ・講演等依頼 ■「名立・平和を願う日」パネル展 <ul style="list-style-type: none"> ・期間 令和3年3月11日（木）～3月20日（土） ・会場 うみてらす名立ゆらら通路 ・内容 名立機雷爆発事件等の資料展示 ■第7回「名立・平和を願う日」（令和3年3月21日（日）会場：名立地区公民館） <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ「世代を超えて、平和を語り継ぐ」 ・講演 新潟県原爆被害者の会 事務局長 西山 謙介 氏 「原爆がもたらした悲惨と教訓～被爆2世が語り継ぐこと～」 ・広島平和学習体験の発表 前名立中学校生徒会長 渡邊 蒼彩さん ■「名立・平和を願う日」供養活動（令和3年3月30日（火））会場：宗龍寺ほか） <ul style="list-style-type: none"> ・名立機雷爆発事件や名立崩れ犠牲者の供養、「名立・平和を願う日」宣言文の読上げ ・名立機雷爆発事件の発生地や平和を守る碑周辺の清掃 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナ禍でも感染症対策を講じながら第7回記念事業を開催した。 ・当地で起こった名立機雷爆発事件を踏まえた内容とし、原爆被爆2世の方から貴重な体験談を語っていただいた。 ・また、令和元年度「広島平和記念式典中学生派遣事業」の参加報告会DVDを上映するとともに、参加生徒から感想を發表いただいた。同時に、うみてらす名立でのパネル展の開催や地元の供養祭への参列とあわせ、平和を守り、戦争の悲惨さを長く伝える大切さを考える機会となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名立区内で起きた様々な歴史的な事実を風化させないために、引き続き関係団体と連携し、効果的な事業内容を検討していく必要がある。 <p style="text-align: right;">自己評価 A</p>	A

■事業実施状況

評価 A:達成 B:概ね達成 C:達成したが見直しが必要 D:未達成

区分 (規約から)	事業項目	目的	実施状況	自己評価(成果)並びに今後の課題	評価委員 評価
①ふるさとの伝承	「ふるさと」の伝統・文化等の伝承	地域の伝統行事の実態を把握し、子どもたちが積極的に参加できるよう、調整や検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ■名立地区公民館と連携し、区内芸能保存会の活動の活性化や歴史・文化の継承活動に努めた。 ■名立区公民館まつりへの出演依頼及び練習への支援等 ※名立まつりは、コロナ禍のため中止となった。(令和2年8月2日(日)) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、感染症対策を講じながら名立区公民館まつりを開催した。 ・作品発表会とステージ発表映写会の他に、公民館利用サークルの体験講座(絵本の読み聞かせや切り絵体験等)と、ふれあい講座(輪投げや造形あそび等)を同時開催し、多くの子どもたちに地域の伝統や文化に触れてもらう機会をつくることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステージ発表会の参加者・団体が固定化・減少化しているため、参加を促す施策が必要である。 <p style="text-align: right;">自己評価 B</p>	A
	職場体験事業への支援	中学生が行う『上越「ゆめ」チャレンジ事業』の実施にあたり、その目的の実現を図るために支援を行う。	名立中学校2年生の職場体験(夏休み期間)は、名立商工会との打合せ前に、コロナ禍のため中止となった。	<p>【成果】-</p> <p>【課題】-</p> <p style="text-align: right;">自己評価 -</p>	-
	コミュニティ・スクールの推進	平成24年度から導入されたコミュニティ・スクールを推進し、小中学校の教育活動を地域と共に進める。	<ul style="list-style-type: none"> ■育む会から、小・中合同学校運営協議会委員を選出した。 ■学校経営方針等を承認し、その方針に基づいた学校運営状況について評価した。 ○学校運営協議会委員 <ul style="list-style-type: none"> 名立の子どもを守り育む会会長、主任児童委員、名立たちばな保育園長 名立区町内会長協議会会長、名立まちづくり協議会会長、上越教育大学特任教授 地域コーディネーター <ul style="list-style-type: none"> 宝田小学校：校長、PTA会長 名立中学校：校長、PTA会長 ○運営協議会 <ul style="list-style-type: none"> 第1回：令和2年6月※書面開催(コロナ禍のため) 第2回：令和2年11月2日(火) 第3回：令和3年2月18日(木)※書面開催(大雪により急遽中止となった) ■石井会長が、宝田小4年生の名立の用水路学習において講師を務める。(令和2年11月30日(月)) ■コミュニティスクールの推進の一環として、宝田小学校大運動会の開催にあたり、記念品(鉛筆)を贈呈した。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、当会が母体となった学校運営協議会を中心に、学校、地域、家庭が連携し、年間を通して事業を進めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や地域貢献など、より地域とともにある学校づくりについて、さらに検討する必要がある。 <p style="text-align: right;">自己評価 A</p>	A
②学校教育活動等の支援	地域の課題解決に向けた取組への参加	地域活動や地域生活の課題を考え、解決するにはどうすればよいのか、考える機会を提供する。 ふるさと上越に愛着をもつ人を育てるとともに、地域の担い手を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒会との打合せ(年3回程度)※中止(コロナ禍のため) ■関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ○「名立中地域貢献活動」 <ul style="list-style-type: none"> 第1回：令和2年7月10日(金)ポケットビーチや地下道などの清掃活動 第2回：令和2年10月5日(月)名立駅やバス停などの清掃活動 第3回：令和2年11月9日(月)うみてらす名立や総合事務所などにパンジーの苗を配布 ■地域青少年まちづくりワークショップ実践事例発表及び意見交換会 ※中止(コロナ禍のため) (令和2年11月28日(土) 会場：高田城址公園オーレンブラザ) ■地域青少年まちづくりワークショップ地域発表会 ※中止(コロナ禍のため) ■代替事業(主催：名立地区公民館) <ul style="list-style-type: none"> ○「メディアリテラシー研修会」(令和2年12月13日(日)会場：名立地区公民館) <ul style="list-style-type: none"> ・講師 上越教育大学 特任教授 石野 正彦 氏(当会運営委員) ・演題 情報社会を生き抜く力を子どもにどう付けるか ・参加 運営委員、教職員 11名 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により主要事業は中止しなければならなかったが、名立中生徒会による「地域貢献活動」は実施されたことから、運営委員も参加し、生徒と協力しながら活動を行うことができた。 ・コロナ禍のため、福祉施設訪問・ふれあい活動は中止した。一方、駅やバス停などの清掃活動と、種から育てたパンジーの苗をうみてらす名立や総合事務所などに配布する事業は実施でき、地域がより明るく元気になる活動となった。 ・コロナ禍で中止した事業の代替として、「メディアリテラシー研修会」を開催した。情報社会の発展に伴う青少年に影響が及ぶ課題や、GIGAスクール構想による学校でのICT教育の進展などについて、子どもたちの健全育成に携わる立場で知識を深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に宝田小学校が創立20周年を迎えることから、当会も地域の代表として、関連事業に携わっていく。 <p style="text-align: right;">自己評価 B</p>	B
	メディアコントロールの普及	ゲームやインターネット等の正しく効果的な使い方を、子どもたちだけでなくその家族や地域住民に普及し、生活習慣の改善等を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ■情報モラル講演会(令和2年7月29日(水)会場：名立中学校) <ul style="list-style-type: none"> ・講師 上越教育事務所 学校支援第1課 課長 五十嵐 守男 氏 ・演題 SNSの時代を生きる ・参加 名立中全校生徒・教職員・運営委員 約65名 ■アウトメディア週間 <ul style="list-style-type: none"> ○宝田小学校 取組週間 令和2年6月1日(月)～5日(金)、11月12日(木)～18日(水)中学校と共同 ○名立中学校 取組週間 令和2年6月1日(月)～5日(金)、11月12日(木)～18日(水)小学校と共同 令和3年1月29日(金)～2月4日(木) ■【再掲】メディアリテラシー研修会(令和2年12月13日(日)会場：名立地区公民館) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル講演会では、情報化が進む中で起きた事件などの映像を実際に見ながら解説があり、SNSのメリット(人や世界を繋ぐ、幸せにする)とデメリット(いじめ・健康問題)の理解が図られた。また、関連する人権についての課題もお話もしていただき、とても有意義な時間となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア教育は、学校と家庭の連携が必要不可欠であり、当会もその“結節点”として、引き続き関わっていく必要がある。 <p style="text-align: right;">自己評価 A</p>	A

■事業実施状況

評価 A：達成 B：概ね達成 C：達成したが見直しが必要 D：未達成

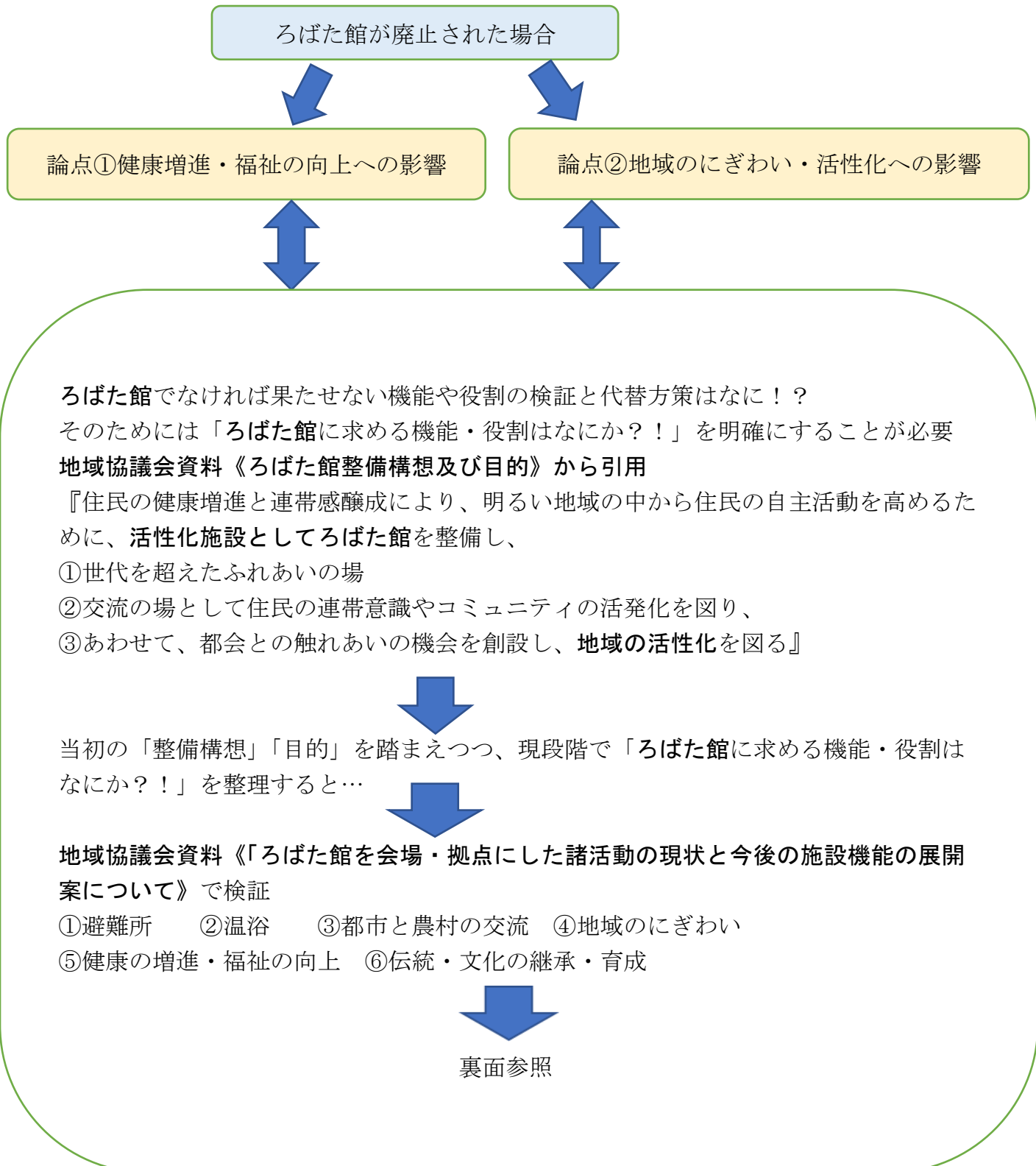
区分 (規約から)	事業項目	目的	実施状況	自己評価（成果）並びに今後の課題	評価委員 評価
③家庭での子育て支援	『教育ハンドブック』の配布	学校教育活動の意義、名立区の歴史・地勢・環境などを周知し、日常の子育てに役立てる。	「名立区教育ハンドブック」を宝田小学校新一年生及び名立中学校教職員（共有用）に配布した。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 配布することにより、名立の歴史や文化について知識を深める機会を提供することができた。 また、名立中教職員（共有用）にも配布し、地域学習に活用していただいた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲載内容について、定期的に更新する必要がある。 また、学校教育でより活用してもらえるように、異動教職員への説明の機会を設けるなど、小中学校とさらなる活用を検討していく必要がある。 <p>自己評価 A</p>	A
④安全・安心の確保	子どもたちの安全・安心の確保	子どもたちが安全で安心して生活し通学できる環境を、地域全体で確保する。	<p>■「夏季安全点検」・「こども110番の家点検」調査活動（令和2年7月15日（水））</p> <ul style="list-style-type: none"> ○名立区防犯協議会と合同で、名立区内の遊具や施設、バス停の安全点検及びこども110番の家点検（対応マニュアルの有無や看板等の確認）を実施した。 ・参加者13名 ・点検箇所 遊具や施設、バス停 区内一円40か所、こども110番の家 区内一円19か所 <p>■「下校時における子どもたちの見守り活動」（通常期：令和2年11月13日（金）、降雪期：令和2年2月2日（火）対象：名立中学校生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一斉下校日にあわせて、北部（徒歩）と南部（バス）にそれぞれ分かれて、生徒が安全に帰宅できるよう立哨及び引率を行い見守るとともに、環境点検活動を実施した。 ・参加者11名 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 名立区防犯協議会と合同で開催することで、円滑に、かつ効率良く実施することができた。また、遊具等の不備箇所については、関係機関へ改善要望を行った。「こども110番の家」については、適宜、看板や対応マニュアルの交換対応を行い、より良い環境を整備できるよう取り組むことができた。 子どもたちの見守り活動は、下校時間が薄暗くなる時期を狙って実施し、改めて交通安全等の課題を把握することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も名立区防犯協議会と連携し活動を継続し、安全・安心の高揚を図ることが必要である。 今年度も大型鳥獣の出没があったことから、より一層地域ぐるみで、子どもたちの見守りができるよう活動の工夫が必要である。 <p>自己評価 A</p>	A
⑤団体等への提言・支援	子どもたちの企画・運営活動への提言・支援	地域イベントの企画・運営に子どもたちが携わることで、毎日生活する地域に関心を持ち、自分たちで考えて行動する力を養い、「ふるさと」に対する愛着の醸成を図る。	名立まつりは、子どもたちの参画について調整段階で、コロナ禍のため中止となった。（令和2年8月2日（日））	<p>【成果】－</p> <p>【課題】－</p> <p>自己評価 －</p>	－
⑥連絡調整・情報交換等	ニュースレター発行	ニュースレターを発行し、名立区内外に当会の活動状況を周知する。	<p>■年間6号発行し、名立区内外に配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1号：令和2年5月25日 第2号：令和2年7月25日 第3号：令和2年9月25日 第4号：令和2年10月25日 第5号：令和3年1月25日 第6号：令和3年3月31日 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ニュースレターの他、名立区だより「しずく」へも活動を掲載することで、当会の活動状況をさらに周知することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定例の内容だけではなく、運営委員や子どもたち・保護者からも記事を投稿してもらおうなど「読んでもらう」工夫がさらに必要である。 <p>自己評価 B</p>	B
⑦その他	「あいさつ活動」の普及	「あいさつ活動」を通して、明るい・活気ある地域づくりを目指す。	<p>■宝田小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ①毎朝 登校直後に各教室を分担してまわり、朝のあいさつを行った。 ②学年ごとに2か月に1回実施 全校児童が主体となってあいさつを行い、感想をランチタイムで発表した。小中学校が同じ週に行うことで意識の向上を図った。小学校の玄関であいさつ交流を実施した。 <p>■名立中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 名立中学校バス停前において、日替わりで部活単位や学年単位等により、バス停前を通る車や歩行者へのあいさつを行った。 ①令和2年6月1日（月）～5日（金） ②令和2年6月22日（月）～24日（水）小中学校合同 ③令和2年9月25日（金）、9月28日（月）～30日（水） ④令和2年10月12日（月）～15日（木）小中学校合同 <p>■育む会・小中学校合同あいさつ運動（令和2年10月12日（月）名立中学校バス停前）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者30名 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校と連携し活動することにより、子どもたちによる明るく元気なあいさつ活動が定着化している。 また、令和元年度「上越市地域青少年育成会議協議会設立10周年記念一斉あいさつ運動」を契機として、今年度も子どもたちと運営委員が一緒になって、あいさつ活動を行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も学校と連携し、大人も一緒になって、地域全体で意識を高めることが課題である。 <p>自己評価 B</p>	B

名立区地域協議会「ろばた館の存続に関する検討」第2分科会報告

1 「論点整理」の前に…

「ろばた館の存続」について検討しているが、私たちが望むのは…

- ①「ろばた館」の存続か？
- ②「ろばた館の有する機能」か？



地域協議会資料

《「ろばた館を会場・拠点にした諸活動の現状と今後の施設機能の展開案について」

検証結果》

機能	分科会意見	分科会検証結果
避難所	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣施設では指定避難所としての機能代替は困難 ・新型コロナウイルス感染症対策の面からも継続が必要 	存続
温浴	<ul style="list-style-type: none"> ・温浴機能を望む声は強いが、温浴機能だけでろばた館の存続が検討された場合、ろばた館が有するその他の機能の存続が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の付帯施設（機能）として小規模温浴機能を整備 ⇔福祉浴室「いたわりの湯」を活用 ⇒①維持費の削減 ②利用者の利便性向上
都市と農村の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験、不動山登山ほか、地域イベントでの交流会場として利用 ・帰省客の利用が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型の交流施設や様々な事業、イベント、会議等の会場として規模や機能を有する施設は近隣になく、存続 ⇔「今後の施設機能の展開案」については総じて「検討する」であることから、ろばた館が有する多くの機能の代替施設としての担保性は低い
地域の賑わい（憩い・癒し・集い）の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やイベント会場として利用 ・近隣町内等の作業後の慰労会等に利用 ・加工グループの活動会場 ・大人数が利用可能な会議室 ・ 	
健康の増進 福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきサロン、健康講座等の会場 ・老人クラブ及び連合会、名立区住民福祉会の諸事業の開催会場 ・エレベーターを有する高齢者や障がい者に優しいUD施設であり、有効活用を図るべき 	
伝統・文化の継承・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統芸能やイベント等の会場 	

論点③収支改善

論点④今後のろばた館の運営



新しいろばた館の方向性



* アンケートとの整合性